

昭和59年卒 還暦を祝う同期会

8月10日（日）、秋田キャッスルホテルにて昭和59年卒の還暦祝賀同期会を行いました。還暦の区切りということもあり、県内はもとより全国から95名の同期生が集いました。

同期会は、2人の恩師（菅原洋先生、米田進先生）をお迎えし、楽しい時間となりました。卒業以来42年ぶりの顔もあったことから参加者全員が簡単な自己紹介を行いましたが、その後は、時が過ぎるのも忘れて思い出を語り合い、お互いの健勝を喜ぶ声が会場にあふれました。盛会の中、応援団員OB2名のきびきびとしたリード（応援の振り）で校歌を齊唱し、名残惜しくも会を閉じました。

次回からは3年周期で実施していく予定です。69歳（数え年の古希祝い）の会を千秋楽とし、もう3回は現在の方法で案内をお送りします。次回の開催に向けてさらにネットワークを広げていきたいと思っていますので、今回参加できなかった方々もぜひ機会を見てご参加ください。

（三浦 亨 記）



若菜会講演会、南極観測体験談に興味津々

秋高女子卒業生の会「若菜会」は、令和7年度通常総会を7月6日、秋田拠点センターALVEで開催した。令和6年度の活動としては、県の女性活躍推進担当理事・丹治純子氏と会員7人による面談や、同窓会ホームページ内に若菜会ページを開設したことなどについて、菊地えり子副会長が報告した。

総会後は、第66期南極観測隊に同行した秋田魁新報社の大久保瑠衣記者（平成14年卒）が体験談を語った。第66期では女性隊長のもと、女性隊員の人数が過去最多となり、現場での女性の活躍が印象的だったという。

水の節約のため1週間お風呂の水を替えないと、人懐っこいペンギンとの交流などのエピソードが紹介されると、会場からは驚きや笑い声上がった。講演後も熱心な質問が相次ぎ、貴重な体験への関心の高さがうかがえた。



「つどい」 投稿について

①「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。原稿は概ね350字を目途にお願いします。

昭和41年卒同期会

傘寿前年にあたるのでと招集をかけ、S41卒生35名が集合した。卒業学年より60年が経過し、それなりの年輪を刻んだものたちである。会長川村挨拶の中で、この1年間に逝去された同期生を紹介し、黙祷を捧げる。校歌・校友会歌は所用にて不参加の応援団長にかわり校長経験柴田が壇上リードさせてもらいました。10年先輩の三船新次先生の変わらぬ激励祝辞がうれしく、宴に移って最初の乾杯は遠来東京よりの田口佳孝君。宴中石田・関根のサックス+トランペットセッションが花を添えた。遠路はるばる組からのスピーチでは、旅費コストものとせず楽しみに参加しているのだから、傘寿までとか区切りを決めて進めないでねと念押しをされてしまった。ということで、会長からは、10月第一土曜日は決まっていることなので、来年は10月3日ですねとの表明もあり、傘寿祝会への多数参加呼びかけを確約したうえで、最後は塩谷洪毅君の『一本』で締めた。

（柴田 義弘 記）



昭和54年卒同期会

8月16日午後6時から、22名の参加で「昭和54年卒同期会」が秋田キャッスルホテルで行われた。

2017年から毎年開催（コロナ感染拡大のため2回中止）している。昨年の東京開催では30名が参加。お盆の帰省に合わせることで多くの人の参加を期待していたが、その思惑は見事に外れてしまい残念。次回開催の大きな課題材料となった。

人数が少なくなった分、お互いの話は深まり、キャッスルのバー、ロータスでの二次会にも多数参加し盛り上がった。今回初めて参加したY君は30年ぶりの秋田のこと、そんな機会になったことは嬉しく、開催の主旨は充分達成することができた。

『来年元気でいるとは限らない』ので、元気なうちは毎年開催することを確認。最後にW君の見事なリードで校歌を声高らかに歌い、来年も秋田で集うことを約束して閉会した。

（高橋 信一 記）

